

# 令和元年度 学校経営環境分析書

吳中央中学校区 校番 13 学校名 吳中央中学校

## 1 学校の内外環境の分析

外部環境	<p><b>O</b> (支援的要因)</p> <p>【国】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校種間連携が重要視される新学習指導要領が示され、小中一貫教育を進める環境がより整えられた。</li> </ul> <p>【県】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「広島県で学んで良かったと思える日本一の教育県の創造」に向けて、特色ある学校づくりが推進されている。</li> </ul> <p>【市】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫教育を全市的に推進している。本校では、施設一体型の小中一貫教育を進める環境が整った。</li> </ul>	<p><b>S</b> (強み)</p> <p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設一体型のメリットを活かし、小中の教職員連携が円滑にできる。</li> <li>小中の児童生徒の発達を日常的に観察し取組に生かせる。</li> </ul> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9年間を見通したキャリア教育と異学年交流が確立し、生徒の自尊感情の高揚を図る取組みができる。</li> </ul> <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>P T A活動が活発に取り組み、教育活動への支援に協力的である。</li> <li>図書・花ボランティア等、学校への支援・協力関係がある。</li> </ul>	内部環境	<p>支援的要因と強みを生かした活動・取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設一体型小中一貫教育校の強みを活かし、小中教職員が日常的に連携を図り、より効果的な教科教育・キャリア教育・道徳教育を推進し、生徒の資質・能力の育成を図る。</li> <li>生徒の規律・自立・貢献の成長の流れを効果的に自己評価させ、自己指導能力の育成を図る。</li> <li>課題が見られる生徒への個別支援を強化する。</li> </ul>
	<p><b>T</b> (阻害的要因)</p> <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の教育力が低下し、ゲーム依存などによる基本的な生活習慣が確立できず、不登校・長欠生徒が増加している。</li> <li>意欲・向上心に課題が見られ、学習意欲に欠ける生徒が増えている。</li> </ul>	<p><b>W</b> (弱み)</p> <p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な学校経営が十分でなく、PDCAサイクルに基づく学校経営ができていない。</li> <li>業務改善が進まず、教職員の超過勤務が常態化している。</li> </ul>		<p>阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報の共有化を図る体制の確立と効果的な会議のあり方を検討し、より組織的・協力的な学校経営を推進し、業務改善を図る。</li> <li>学年連絡調整会議等を定期的に行い、組織的に長欠・不登校生徒の対応を協議していく。</li> <li>情報モラル教育を計画的に実施し、生徒の情報モラルの育成と正しい判断力を身に付ける取組を推進していく。</li> </ul>

## 2 重点課題

### ① 生徒の「心の居場所」のある学校づくり

- 生徒理解に基づく粘り強い指導と生徒指導の三機能を活かした教育活動を推進し、生徒・教職員の共感的人間関係を築き、生徒の「心の居場所」のある学校づくりを推進していく。
- 課題がある生徒への個別支援を組織的に取組む。

### ② 「豊かな学び」と「豊かな生き方」を実現し、学園が目指す資質・能力の育成を図る

- 「学園授業スタイル」に基づき授業改善を進め、学園が目指す生徒の資質・能力の育成を図る。

### ③ 業務改善を図り、元気で明るい職場づくり

- 情報を共有化し、組織的に目標の連鎖を図り、協力的に課題解決することが出来る学校を実現する。
- 業務改善を図り、元気で明るい職場を目指す。